



**堺化学工業株式会社**

**2026年3月期**

# **本決算説明会**

**2026年5月13日**

【東京証券取引所・プライム市場 証券コード：4078】

# トップメッセージ

## 【中期経営計画「変革・BEYOND2030」最終年度にあたり】

中期経営計画「変革・BEYOND2030」の最終年度となる27.3期の営業利益は、目標としていた90億円から大きく乖離する計画となりました。

計画策定時から、外部環境も様変わりしているとはいえ、ひとえに、成長事業の利益拡大に想定以上の時間を要していることが要因であり、経営としても非常に悔しく思います。

一方で、顔料級酸化チタン事業終了という大きな取り組みはトラブルなく遂行でき、効率化検討事業やその他事業の収益力強化は想定以上の成果を上げました。事業ポートフォリオ変革は着実に進展しています。

最終年度となる27.3期は、目標としているROE 8%の達成に注力していきます。

そして、最重要課題である成長事業の利益拡大に取り組むほか、次の利益の柱の創出に向けて研究開発にも引き続き経営資源を投じていきます。

さらに、事業ポートフォリオ変革の手も緩めることなく、中長期的な企業価値向上に向けてより一層邁進していく所存です。

# 本説明のポイント

## 26.3期 実績

- 顔料級酸化チタン事業は計画通り概ね終了、事業ポートフォリオ変革を着実に推進
- 化粧品材料事業は、第3四半期に減損損失を計上(▲2,413百万円)
- 株主還元を大幅拡充(増配135→145円/株、自己株式取得2,500百万円および消却)
- 前年同期比：増益を確保(化粧品材料での落ち込みを、電子材料や触媒等でカバー)
  - ・電子材料：AIサーバー関連の需要を取り込み、誘電体・誘電体材料ともに好調に推移
  - ・化粧品材料：中国景気後退と新製品採用遅れによる減収から営業赤字
  - ・触媒：拠点集約が完了し効率的な生産がスタート、一時的な高付加価値品の出荷も寄与
- 修正計画比：概ね計画通りの利益(成長事業の未達を、安定・効率化検討事業でカバー)
  - ・成長事業(未達)：化粧品材料が大きく未達、電子材料、有機化学品は計画線
  - ・安定事業(上振れ)：衛生材料、受託加工とともに計画を上回る
  - ・効率化検討事業(上振れ)：無機材料、触媒中心に計画を上回る

## 27.3期 計画

- 売上高は微増も、営業利益は26.3期比で約450百万円減益の6,000百万円の計画
  - ・成長事業：電子材料と有機化学品で増益も、化粧品材料は依然厳しい状態
  - ・効率化検討事業：主に酸化チタン事業終了に伴う利益減で大きく減益
  - ・医療事業：薬価改定影響により、赤字幅が拡大
- 配当は、15円増配の、160円/株の計画
  - ・3か年中計期間中の株主還元総額は約94億円、計画値80億円以上を大幅超過の見込み
  - ・中間配当：80円/株、期末配当：80円/株
  - ・DOEは、3%を上回る見通し

# 2026年3月期 決算サマリー

---



# 2026年3月期 本決算サマリー

● 前年同期比 (売上高 : ▲3.5% / 営業利益 : +5.9%)

売上高は、効率化検討事業を中心とした効率化による販売量の減少影響が大きく、減収となった。  
 営業利益は、成長事業でのマイナスを、安定事業・効率化検討事業・その他事業でカバーし、増益を確保した。

外部要因		内部要因	
プラス面	マイナス面	プラス面	マイナス面
<ul style="list-style-type: none"> <li>・半導体市場が堅調に推移 (特にAIサーバー関連)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国経済の長引く低迷</li> <li>・タイ経済の低迷</li> <li>・国内建材関連の需要低迷</li> <li>・日焼け止め市場の流行変化 (無機系 → 有機系)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・価格改定の実施</li> <li>・販売構成向上(電子材料)</li> <li>・拠点集約完了(触媒)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・操業度の低下 (チタン事業の終了)</li> <li>・一過性の評価損</li> </ul>

● 修正計画比 (売上高 ▲5.3% / 営業利益 ▲0.7%)

売上高は、酸化チタン事業終了において、一部販売を27.3期に繰り越す分等の影響で計画比▲5.3%となった。  
 営業利益は、成長事業での未達を、安定事業や効率化検討事業でカバーし、概ね計画通りとなった。

外部要因		内部要因	
プラス面	マイナス面	プラス面	マイナス面
<ul style="list-style-type: none"> <li>・半導体市況が堅調に推移 (特にAIサーバー関連)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国経済の長引く低迷</li> <li>・日焼け止め市場の流行変化 (無機系 → 有機系)</li> <li>・タイ経済の低迷</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・価格改定の実施</li> <li>・販売構成向上(電子材料)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一過性の評価損</li> </ul>

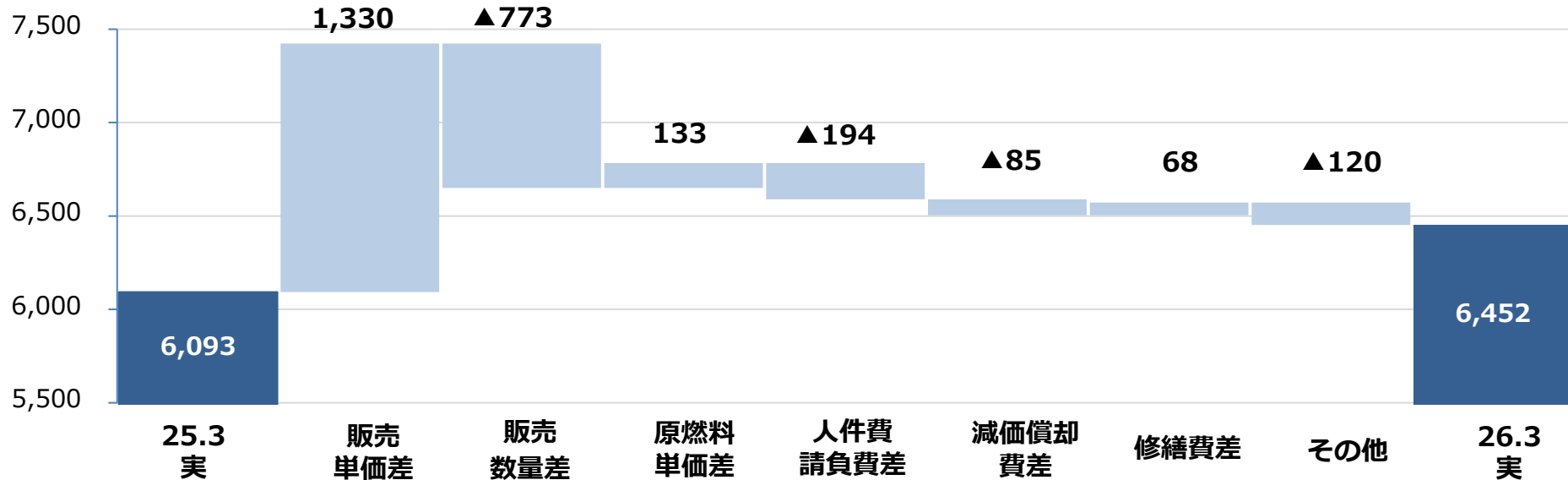
# 2026年3月期本決算業績概要（前年同期比、修正計画比）

	25.3 実績		26.3 実績		前年同期比		26.3 修正計画		修正計画比	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	84,409	—	81,447	—	▲2,962	▲3.5	86,000	—	▲4,552	▲5.3
営業利益	6,093	7.2	6,452	7.9	358	5.9	6,500	7.6	▲47	▲0.7
経常利益	6,279	7.4	6,545	8.0	265	4.2	6,500	7.6	45	0.7
親会社株主に 帰属する 当期純利益	5,013	5.9	2,752	3.4	▲2,261	▲45.1	3,000	3.5	▲247	▲8.2
EPS	309円21銭		176円42銭		—		191円20銭		—	

	前年同期比	修正計画比
売上高	電子材料事業で売上高を伸ばすも、効率化検討事業を中心に販売量は減少し、化粧品材料での販売不振もあり、前期比で▲3.5%となった。	効率化検討事業やその他事業での効率化を進めた結果や電子材料での第3四半期の一時的な調整局面もあり、計画対比で▲5.3%となった。
営業利益	化粧品材料でのマイナスを、電子材料や効率化検討事業(触媒・無機材料)やその他事業でカバーし、前期比で5.9%の増益となった。	化粧品材料でのマイナスを、安定事業や効率化検討事業(触媒・無機材料)でカバーし、概ね計画通りの利益となった。
純利益	第3四半期に実施した化粧品材料用マルチプラントの減損処理等(▲2,982百万円)による影響で減益となった。	特別転進支援プログラムによる特別損失の計上により計画比▲8.2%となった。

# 営業利益増減要因（前年同期比）

(百万円)



## プラス要因

### 販売単価差

- ・前期中からの価格改定によるベースアップ効果が年間で寄与
- ・高付加価値品の出荷や不採算品の統廃合による販売構成の改善 (電子材料・触媒)

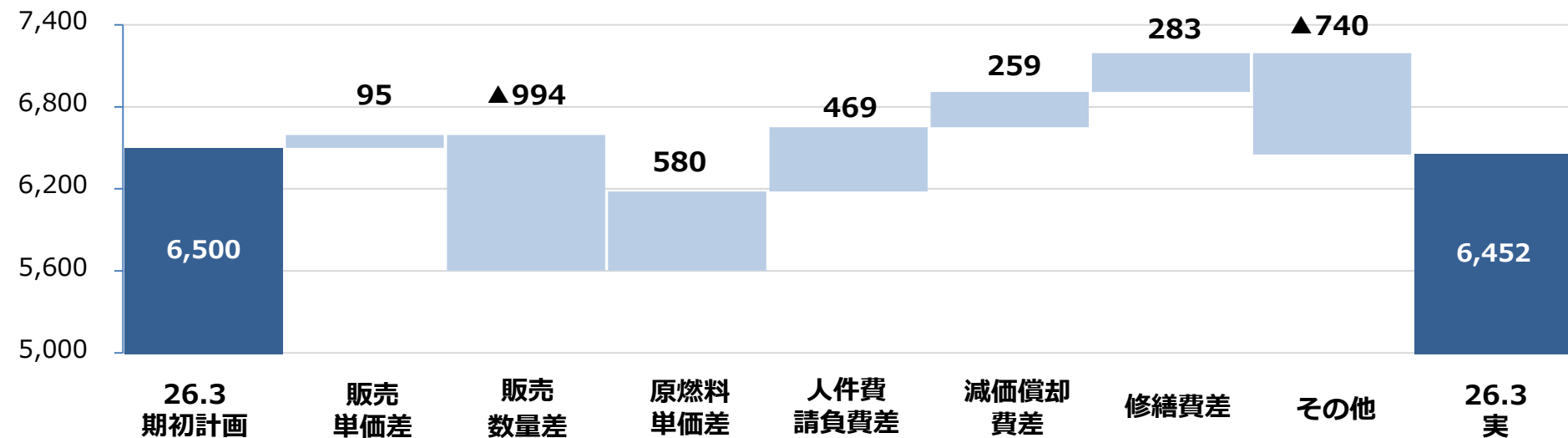
## マイナス要因

### 販売数量差

顔料級酸化チタン事業終了をはじめとした、効率化検討事業での、採算性重視の戦略により数量を追わなかったことによるマイナス

# 営業利益増減要因（期初計画比）

(百万円)



## プラス要因

### 原燃料単価差

- ・ 為替が計画時よりも円高で推移し、調達コストを抑制

### 人件費請負費差

- ・ 計画時よりも人員体制の整備が進行  
(引き続き体制整備は継続していく)

## マイナス要因

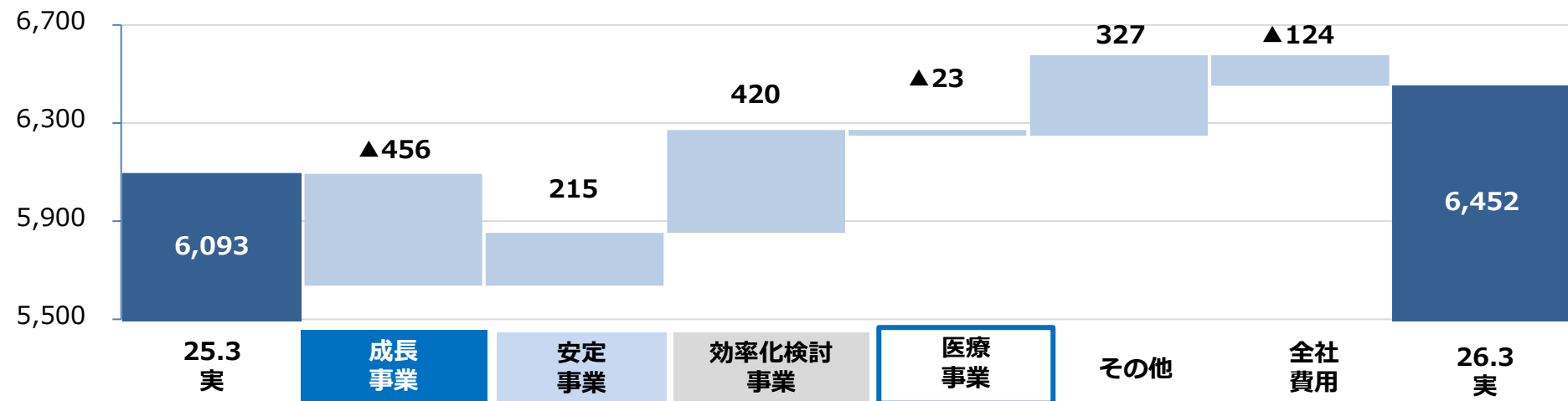
### 販売数量差

- ・ 酸化チタン事業での販売終了見込みが、一部27.3期にずれ込んだ影響

### その他

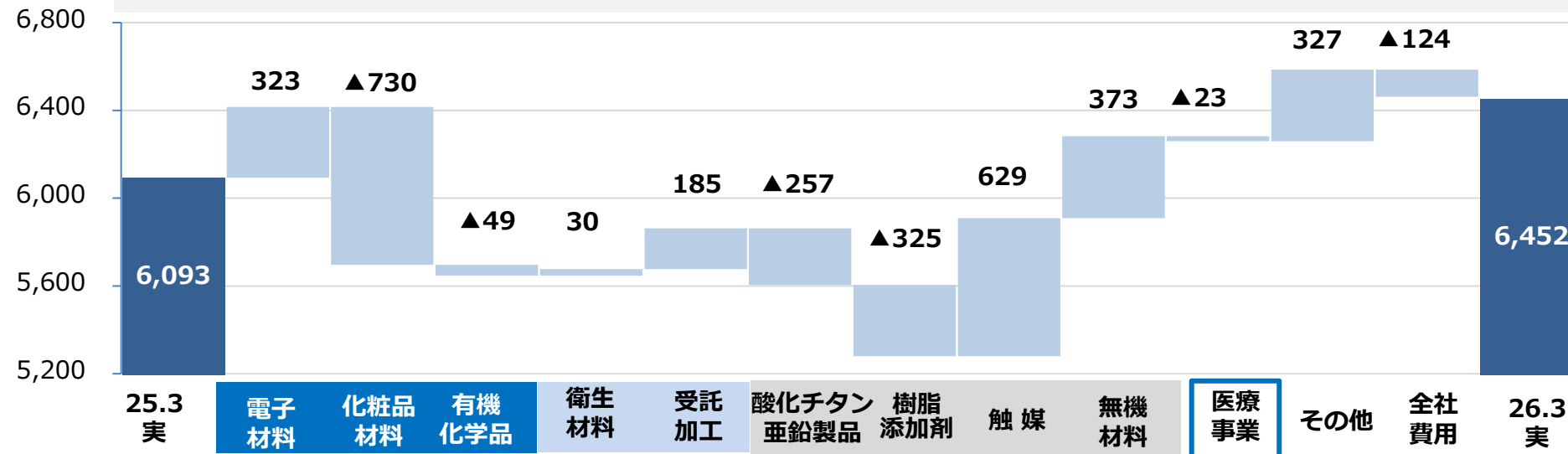
- ・ 3月期末での評価損・廃棄損を計上

# セグメント営業利益増減（対前年同期比）

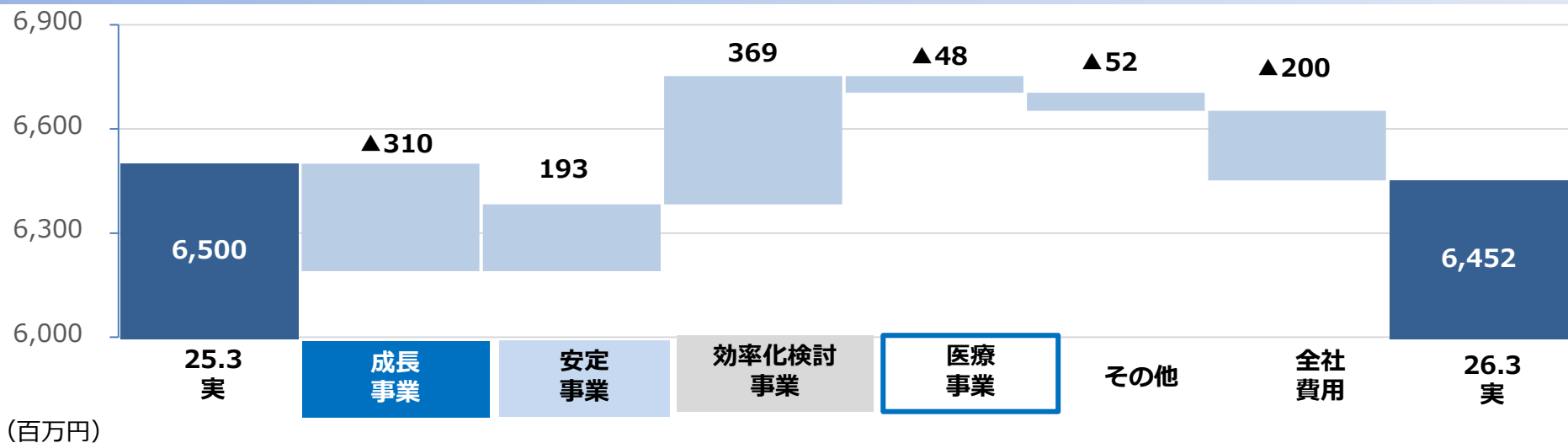


(百万円)

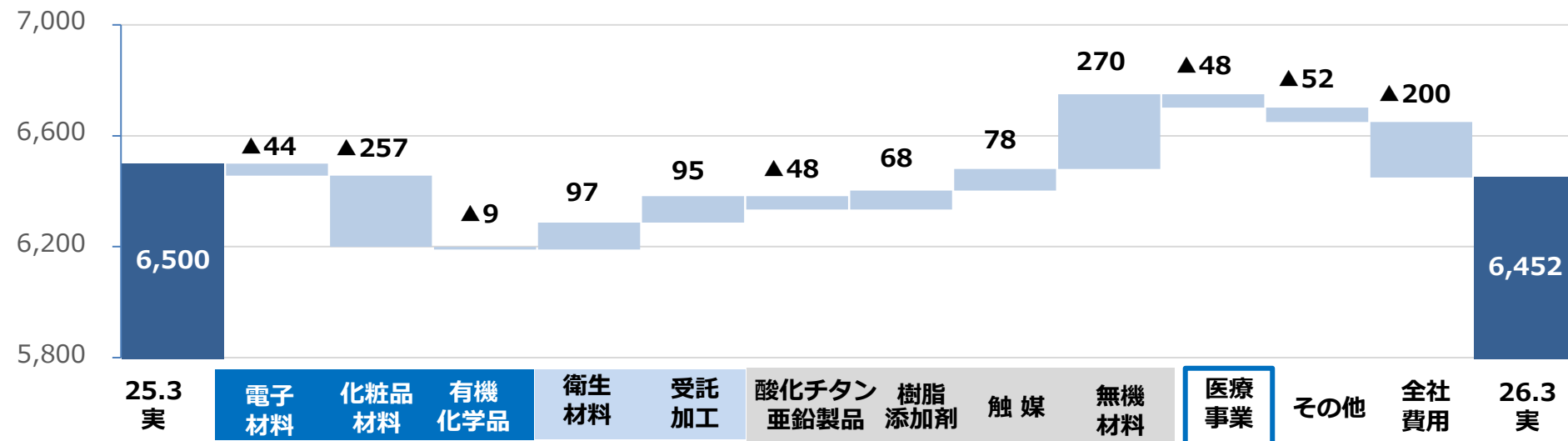
- 成長事業は、電子材料が好調に推移するも、化粧品材料で大きく減益となった。
- 効率化検討事業は、樹脂添加剤の海外での不振を、無機材料や触媒でカバーし増益となった。



# セグメント営業利益増減（対修正計画比）



▶ 化粧品材料が主な成長事業での計画未達を、無機材料を中心とした効率化検討事業でカバーした。



# 貸借対照表比較

比較連結 B/S (単位：百万円)	2025.3	2026.3	増減
現金及び預金	16,183	15,502	▲681
受取手形及び売掛金	26,997	25,056	▲1,941
棚卸資産	26,993	23,879	▲3,114
その他	1,241	912	▲329
<b>流動資産 合計</b>	<b>71,416</b>	<b>65,352</b>	<b>▲6,064</b>
有形固定資産	44,520	43,167	▲1,353
その他	7,382	8,697	1,315
<b>固定資産 合計</b>	<b>51,903</b>	<b>51,864</b>	<b>▲39</b>
<b>資産 合計</b>	<b>123,319</b>	<b>117,216</b>	<b>▲6,103</b>
支払手形及び買掛金	8,561	8,632	71
短期借入金	11,512	8,357	▲3,155
その他	7,835	8,281	446
<b>流動負債 合計</b>	<b>27,910</b>	<b>25,272</b>	<b>▲2,638</b>
長期借入金	7,406	4,643	▲2,763
転換社債型新株予約権付社債	3,000	3,000	—
その他	5,614	5,376	▲238
<b>固定負債 合計</b>	<b>16,022</b>	<b>13,021</b>	<b>▲3,001</b>
<b>負債 合計</b>	<b>43,933</b>	<b>38,293</b>	<b>▲5,640</b>
株主資本	74,679	72,771	▲1,908
その他	4,706	6,150	1,444
<b>純資産 合計</b>	<b>79,386</b>	<b>78,923</b>	<b>▲463</b>
<b>負債・純資産 合計</b>	<b>123,319</b>	<b>117,216</b>	<b>▲6,103</b>

## 【主な増減】

### ・売上債権 ▲1,941百万円 (▲7.2%)

- ①回収サイトの短縮
- ②売上高の減少(前年4QNET比較 ▲766百万円)

### ・棚卸資産 ▲3,114百万円 (▲11.5%)

製品・原材料ともに単価の上昇はあるものの、数量削減努力により圧縮

### ・有形固定資産 ▲1,353百万円 (▲3.0%)

成長投資として新規設備への投資を実行するも化粧品材料用マルチプラントを減損。減価償却も合わせると、前期比▲3.0%

### ・短期借入金の返済 ▲3,155百万円(▲27.4%)

### ・長期借入金の返済 ▲2,763百万円(▲37.3%)

※CCCは、本中計目標である180日以下を達成(前期比▲16日)

	目標	25.3期末	26.3期末
自己資本比率	—	63.5%	66.3%
CCC	180日以下	194日	178日

(\*CCC：キャッシュ・コンバージョン・サイクル)  
(算出条件：運転資金 ÷ 売上高 × 12ヶ月 × 30日)



# キャッシュフロー計算書比較

比較連結 C/F	2025.3	2026.3	増減
<b>期首 現預金残高</b>	<b>16,475</b>	<b>16,153</b>	<b>▲322</b>
税金等調整前当期純利益又は当期純損失	5,973	4,506	▲1,467
減損損失	463	2,982	2,519
減価償却費	3,649	3,740	91
売上債権の増減額	2,599	2,016	▲583
棚卸資産の増減額	1,926	3,117	1,191
有形固定資産の売却損益	▲1	▲1,490	▲1,489
仕入債務の増減額	▲650	80	730
法人税等の支払額、還付額	▲848	▲1,365	▲517
その他	▲1,107	892	1,999
<b>営業活動によるキャッシュフロー</b>	<b>12,005</b>	<b>14,479</b>	<b>2,474</b>
有形固定資産の取得による支出	▲6,948	▲6,070	878
有形固定資産売却	4	1,642	1,637
その他	1,230	▲217	▲1,447
<b>投資活動によるキャッシュフロー</b>	<b>▲5,714</b>	<b>▲4,645</b>	<b>1,069</b>
<b>FCF(営業CF+投資CF)</b>	<b>6,291</b>	<b>9,834</b>	<b>3,543</b>
短期借入金・長期借入金の増減額	▲5,136	▲5,911	▲775
自己株式取得による支出	▲1	▲2,500	▲2,499
配当金の支払額	▲1,589	▲2,179	▲590
子会社株式の取得による支出	▲152	-	152
その他	▲1	-	1
<b>財務C/F計</b>	<b>▲6,879</b>	<b>▲10,592</b>	<b>▲3,712</b>
<b>現預金に係る換算差額計</b>	<b>266</b>	<b>49</b>	<b>▲217</b>
<b>現預金増減計</b>	<b>▲322</b>	<b>▲708</b>	<b>▲386</b>
<b>期末 現預金残高</b>	<b>16,153</b>	<b>15,444</b>	<b>▲709</b>

## 【総括】

CCC短縮をKPIとしたCF経営が浸透し、資産のスリム化も推し進めた結果、FCFは35億円増加し、株主還元や借入れ返済に充当。

### ・営業CF

- ①減損損失影響で、純利益は減少
- ②売上債権の減少
  - 回収サイトの短縮
  - 売上高の減少

### ・投資CF

- ①成長事業への投資
  - 有機化学品/医薬品原薬中間体向けの増設や、触媒/拠点集約などの再構築関連を実行
- ②有形固定資産売却
  - 関係会社の東京事務所を売却

→ FCFは、**3,543百万円 増加**

### ・財務CF

自己株式の取得や増配を実行

# 2027年3月期 業績予想

---

# 2027年3月期業績予想

- 売上高は、顔料級酸化チタン事業終了影響を、有機化学品やその他事業でカバーする。
- 営業利益は、電子材料での構成差向上や有機化学品での販売量増加による増益を見込むも、顔料級酸化チタン事業終了影響をカバーし切れず、減益を見込む。
- 純利益は、固定資産譲渡益(2026.3.24 開示、約10億円)により、増益を見込む。

	26.3		27.3						
	通期実績		上期予想		下期予想		通期計画		
	百万円	売上高比	百万円	売上高比	百万円	売上高比	百万円	売上高比	前期比
		%		%		%		%	
売上高	81,447	—	41,700	—	40,000	—	81,700	—	0.3
営業利益	6,452	7.9	3,100	7.4	2,900	7.3	6,000	7.3	▲7.0
経常利益	6,545	8.0	3,200	7.7	2,900	7.3	6,100	7.5	▲6.8
親会社株主に 帰属する 当期純利益	2,752	3.4	2,800	6.7	1,600	4.0	4,400	5.4	59.9

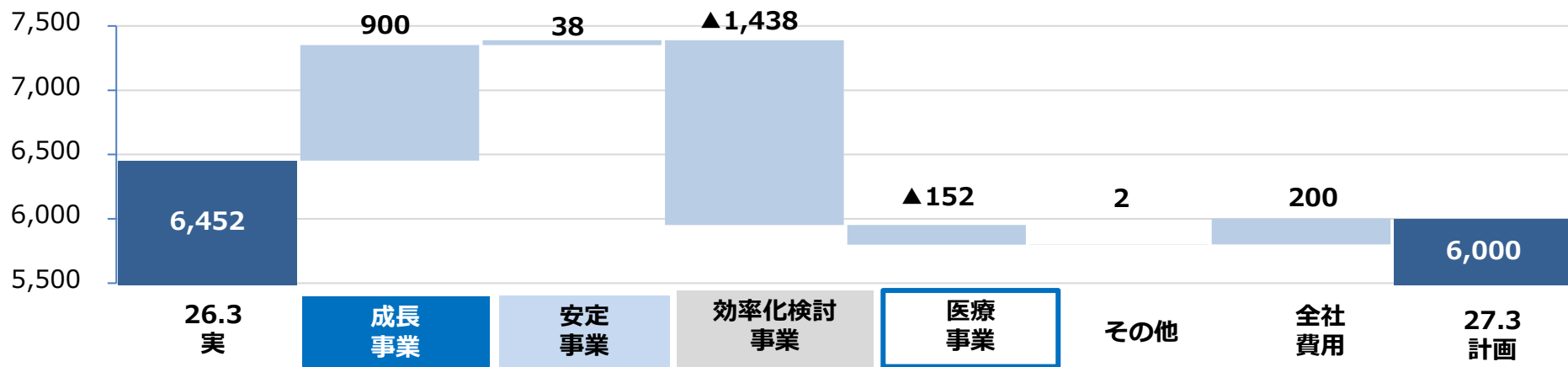
外部要因 (想定)		内部要因 (想定)	
プラス面	マイナス面	プラス面	マイナス面
<ul style="list-style-type: none"> <li>・半導体市場はAI関連が好調に推移</li> <li>・タイ経済が底打ち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国経済の長引く低迷</li> <li>・日焼け止め市場の流行変化 (無機系 → 有機系)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・販売構成向上(電子材料)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・固定費負担割合増加</li> </ul>

\* 米国相互関税政策や中東情勢による影響は予測が困難なため、計画値には織り込んでいない。

# セグメント別予想 (27.3期 売上高・営業利益)

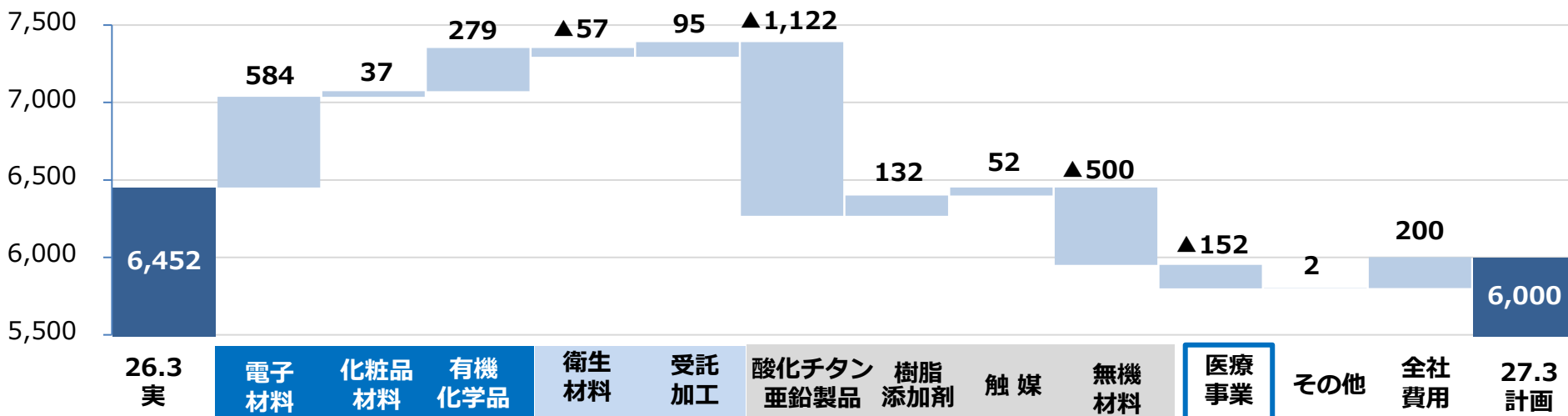
	26.3 期 実績			27.3 期 通期計画			差			
	売上高	営業利益	利益率	売上高	営業利益	利益率	売上高		営業利益	
	百万円	百万円	%	百万円	百万円	%	百万円	%	百万円	%
電子材料	11,377	1,816	16.0	11,500	2,400	20.9	123	1.1	584	32.2
化粧品材料	1,720	▲437	▲25.4	2,000	▲400	▲20.0	280	16.3	37	—
有機化学品	7,185	721	10.0	8,000	1,000	12.5	815	11.3	279	38.7
衛生材料	5,353	457	8.5	5,200	400	7.7	▲153	▲2.9	▲57	▲12.5
受託加工	6,677	805	12.1	7,100	900	12.7	423	6.3	95	11.8
酸化チタン 亜鉛製品	10,244	1,222	11.9	6,800	100	1.5	▲3,444	▲33.6	▲1,122	▲91.8
樹脂添加剤	11,507	1,068	9.3	11,800	1,200	10.2	293	2.5	132	12.4
触媒	3,462	648	18.7	4,000	700	17.5	538	15.5	52	8.0
無機材料	5,100	1,200	23.5	5,100	700	13.7	0	0.0	▲500	▲41.7
医薬事業	8,391	▲48	▲0.6	8,700	▲200	▲2.3	309	3.7	▲152	—
その他	10,427	1,498	14.4	11,500	1,500	13.0	1,073	10.3	2	0.1
全社費用	—	▲2,500	—	—	▲2,300	—	0	—	200	—
<b>連結</b>	<b>81,447</b>	<b>6,452</b>	<b>7.9</b>	<b>81,700</b>	<b>6,000</b>	<b>7.3</b>	<b>253</b>	<b>0.3</b>	<b>▲452</b>	<b>▲7.0</b>

# 27.3期 セグメント営業利益増減（対前期実績対比）



(百万円)

- 電子材料を中心とした成長事業での増益を見込むが、効率化検討事業での顔料級酸化チタン事業終了による影響が大きく、減益を見込む。



# 中期経営計画との乖離に関して

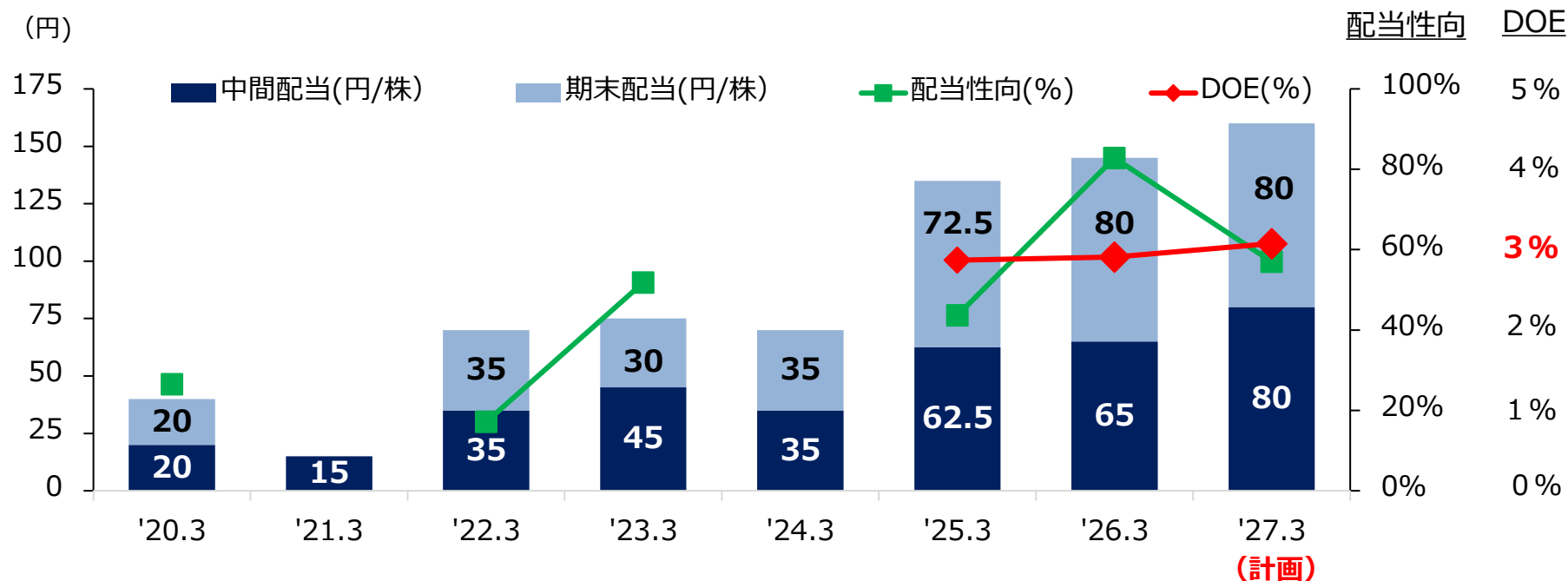
## 成長事業での利益拡大が今後の課題

項目	27.3期営業利益				コメント (安定事業に効率化検討事業を含む)
	旧集計 当初計画	※新集計 当初計画 A	今期 計画 B	差分 B-A	
	億円	億円	億円	億円	
成長事業	57	65	30	▲35	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子材料：概ね計画通り</li> <li>化粧品材料：大きく未達</li> <li>有機化学品：医薬品原薬中間体で未達</li> </ul>
安定事業	27	39	40	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>効率化検討：収益化に成功</li> <li>安定事業：収益化及び新規拡販に成功</li> </ul>
医療事業	2	2	▲2	▲4	<ul style="list-style-type: none"> <li>主力製品の薬価切り下げ影響で未達</li> </ul>
その他	4	7	15	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>不採算品などを収益化</li> </ul>
全社費用	0	▲23	▲23	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>人員計画等で全社費用をコントロール</li> </ul>
<b>合計</b>	<b>90</b>	<b>90</b>	<b>60</b>	<b>▲30</b>	

※ 新集計当初計画は、25.3期に実施したセグメント変更により修正した全社費用配賦前の概算数値。

# 株主還元

- 26.3期：株主還元を大幅に拡充。
  - ・ 配当は、前期比 **+10円増配** の **145円/株** (DOE : 2.9%)
  - ・ 自己株式取得を、2,500百万円実施。 (**取得した株式は、全て消却済み**)
- 27.3期：**26.3期比で+15円の増配**とし、**160円/株**の配当を予定 (**予想DOE : 3%超**)



自己株式取得	'20.3	'21.3	'22.3	'23.3	'24.3	'25.3	'26.3	'27.3
	—	—	15億円	—	—	—	25億円	未定

DOE : Dividend on Equity (自己資本配当率)

# 設備投資・減価償却・研究開発費推移

(単位：百万円)

	22.3	23.3	24.3	25.3	26.3 計画	26.3 実績	27.3 計画
設備投資	5,967	2,658	4,024	6,945	8,000	6,065	5,400
減価償却費	4,331	4,417	4,354	3,649	4,000	3,735	4,000
研究開発費	2,376	2,674	2,722	2,699	2,800	2,842	3,300

## 設備投資について

	26.3		27.3 計画	
	成長投資	更新投資	成長投資	更新投資
比率	約50%	約50%	約40%	約60%
主な内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>有機化学品： 医薬品原薬中間体 CDMO化対応</li> <li>化粧品材料： メイク材料向けマルチ プラント建設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>堺・小名浜両事業所 再構築</li> <li>触媒事業の効率化対応 (拠点集約関連)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>無機材料： レンズ材料向け 酸化ジルコニウム分散液増強</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>堺・小名浜両事業所 再構築</li> </ul>
補足	<ul style="list-style-type: none"> <li>成長投資：計画通り実行。</li> <li>更新投資：事業所再構築を一部見直し、27.3期以降で実施</li> </ul>			

# 2027年3月期業績予想（中東情勢に関する見解）

※2026年5月時点

	足元 （～27.3期 1Q）	中長期 （27.3期 2Q～）
調達 生産面	・ 大きな影響はなし	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 原料・副資材等が調達できず、製品によっては、生産できないリスクあり。</li><li>・ <b>特に影響が大きいと予想されるセグメント</b> <b>有機化学品</b>：溶剤原料を使用するため <b>樹脂添加剤</b>：樹脂原料を使用するため</li></ul>
販売面	・ 大きな影響はなし	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 影響が大きいと予想されるセグメント中心に支障が出る可能性あり。</li></ul>

\* 中東情勢による業績影響は予測が困難なため、計画値には織り込んでいない。

# 事業環境の認識（中東情勢を除いたもの）

	事業	27.3期 計画の前提（5月時点）
成長事業	電子材料	AIサーバー関連については好調を維持する。
	化粧品材料	中国向けは引き続き厳しい見通し。 また、世界的にインフレ基調であり、一時的なコスト重視の傾向から、有機系材料から無機系材料へのシフトは想定より鈍い。
	有機化学品	メガネレンズ市場は、堅調に推移していく。 医薬品原薬中間体の主力商流品の受託は、競争環境の激化により減少傾向の見通し。
効率化検討事業	酸化チタン 亜鉛製品	亜鉛国内建値市況は、前期に比べると、上昇する見通し。
	樹脂添加剤	国内需要：PVC市況も下降傾向で、販売の増加は厳しい見込み。 海外需要：中期的なPVC市況の拡大には変わらず、タイ経済の低迷は底を打つ見通し。 <small>PVC : polyvinyl chloride (ポリ塩化ビニル)</small>
	無機材料	自動車関連部品・素材は、低調に推移する見通し メガネレンズ市場は、堅調に推移していく。

# 2026年3月期 報告セグメント詳細

---

# 旧セグメント・新セグメントの関係性

旧セグメント

旧サブセグメント

新セグメント

24.3期

事業ポートフォリオ変革に向けた定義

25.3期 → 27.3期

成長事業

電子材料  
化粧品材料

**中長期の利益成長を牽引**する  
事業として、市場ニーズ取込みを  
加速

電子材料

化粧品材料

有機化学品

安定事業

衛生材料  
有機化学品  
25.3期～成長事業へ  
受託加工

安定収益を創出する事業として、  
今後も維持

衛生材料

受託加工

効率化  
検討事業

酸化チタン・亜鉛  
樹脂添加剤  
触媒  
\*無機材料

事業構造や業績水準を踏まえ、  
**抜本的な対策を実施し、  
安定・成長事業へのシフト**を図る

酸化チタン 亜鉛

樹脂添加剤

触媒

\*無機材料

医療事業

薬価改定の影響を受けない  
製品へのシフト

医療

\* New

化学事業



## 電子材料

## ● 前年同期比

	25.3		26.3		増減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	10,014	—	11,377	—	1,362	13.6
営業利益	1,493	14.9	1,816	16.0	323	21.7

## ● 修正計画比

	26.3 計画		26.3 実		差	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	12,000	—	11,377	—	▲623	▲5.2
営業利益	1,860	15.5	1,816	16.0	▲44	▲2.4

## ● 前年同期比

売上高	<b>(+) 販売数量の増加</b> 特にAIサーバー関連の需要増加の影響もあり、誘電体・誘電体材料ともに販売数量が増加したため、増収となった。
営業利益	<b>(+) 高付加価値品の販売数量増加</b> AIサーバー関連向けを中心に、誘電体・誘電体材料ともに、高付加価値品の販売数量が増加したため、増益となった。

## ● 修正計画比

売上高	<b>(-) 第3四半期での一時的な調整</b> 年間通じて概ね好調に推移したが、第3四半期での需要の一時的な調整による販売数量の減少により、計画比▲5.2%となった。
営業利益	<b>(-) 概ね計画通り</b> 一時的な販売数量の減少はあったものの、AIサーバー関連向け高付加価値品が好調に推移し、低収益品の販売が減少したことで販売構成も向上し、概ね計画通りとなった。

## 化粧品材料

## ● 前年同期比

	25.3		26.3		増 減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	2,676	—	1,720	—	▲956	▲35.7
営業利益	293	11.0	▲437	—	▲730	▲249.1

## ● 修正計画比

	26.3 計画		26.3 実		差	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	1,700	—	1,720	—	20	1.2
営業利益	▲180	—	▲437	—	▲257	—

## ● 前年同期比

売上高	<b>(-) 販売数量の減少</b> 一時的なコストダウンの流れで、日焼け止め成分として高価な無機系紫外線散乱剤よりも、安価な有機系紫外線吸収剤の採用が伸長した他、中国の景気後退の影響が依然継続していることもあり、販売数量が落ち込み減収となった。
	営業利益

## ● 修正計画比

売上高	<b>(+) 計画通り</b> 事業環境の悪化を踏まえ、当初計画である2,800百万円からは大きく下方修正し、その計画値通りの売上高となった。
	営業利益

## 有機化学品

## ● 前年同期比

	25.3		26.3		増減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	6,638	—	7,185	—	547	8.2
営業利益	770	11.6	721	10.0	▲49	▲6.4

## ● 修正計画比

	26.3 計画		26.3 実		差	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	7,500	—	7,185	—	▲315	▲4.2
営業利益	730	9.7	721	10.0	▲9	▲1.2

## ● 前年同期比

売上高	<b>(+) 販売数量の増加、価格改定効果</b> プラスチックレンズ向け添加剤は販売数量が増加し、また医薬品原薬中間体では、一部製品での前倒し出荷や価格改定を実施したこともあり、前期比で増収となった。
営業利益	<b>(-) 廃棄損・評価損の計上 (医薬品原薬中間体)</b> プラスチックレンズ向け添加剤は堅調な販売により増益であったが、医薬品原薬中間体では減価償却費の増加や3月末に計上した評価損により減益となった。

## ● 修正計画比

売上高	<b>(-) 販売数量の減少</b> プラスチックレンズ向け添加剤は概ね計画通りの進捗であったが、医薬品原薬中間体では、CDMOに関する販売計画が未達となり、計画対比で▲4.2%となった。
営業利益	<b>(-) 概ね計画通り</b> 医薬品原薬中間体での一部製品の倒し出荷などで好調に推移していたが、3月末の評価損の影響により概ね計画通りとなった。

## 衛生材料

## ● 前年同期比

	25.3		26.3		増 減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	5,623	—	5,353	—	▲269	▲4.8
営業利益	427	7.6	457	8.5	30	7.1

## ● 修正計画比

	26.3 計画		26.3 実		差	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	5,200	—	5,353	—	153	2.9
営業利益	360	6.9	457	8.5	97	26.9

## ● 前年同期比

売上高	<b>(-)インドネシア現地での販売競争の激化</b> トレーディング部門での輸入商品の健闘はあるものの、インドネシア紙おむつ市場のコモディティ化による、通気性フィルムの販売の伸び悩みの影響で、減収となった。
営業利益	<b>(+)トレーディング商材が好調に推移</b> インドネシア現地での通気性フィルムの販売が伸び悩む中、大人用オムツやペット用関連商材が好調に推移した影響で、増益となった。

## ● 修正計画比

売上高	<b>(+) 概ね計画通り</b> インドネシア現地での苦戦を、高付加価値な輸入商材がカバーした影響で、計画比で概ね計画通りとなった。
営業利益	<b>(+)コストダウン検討、トレーディング商材の好調</b> インドネシア現地での通気性フィルムのコストダウン品の検討が客先で進み、トレーディングでは大人用オムツやペット用関連商材が好調に推移した影響で、計画比26.9%の増益となった。

## 受託加工

## ● 前年同期比

	25.3		26.3		増 減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	6,422	—	6,677	—	254	4.0
営業利益	620	9.7	805	12.1	185	29.8

## ● 修正計画比

	26.3 計画		26.3 実		差	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	6,900	—	6,677	—	▲223	▲3.2
営業利益	710	10.3	805	12.1	95	13.4

## ● 前年同期比

売上高	<b>(+) 販売数量の増加、価格改定の浸透</b> 工程受託では、新規採用の獲得や継続案件の成長により販売量が増加し、加工顔料では、建材用途など一部で販売が低迷したものの価格改定の浸透を受け、増収となった。
営業利益	<b>(+) 販売数量の増加、価格改定の浸透</b> 販売数量が増加し、また加工顔料においては価格改定の浸透もあり、増益となった。

## ● 修正計画比

売上高	<b>(-) 販売数量の減少</b> 工程受託では新規案件などの増加はあったが、加工顔料において建材関連などを中心に販売数量が伸び悩んだため、計画を下回った。
営業利益	<b>(+) 新規案件の増加、価格改定の浸透</b> 工程受託での新規案件の獲得及び、加工顔料での価格改定を実施したことにより販売構成が改善し、計画を上回った。

# 酸化チタン・亜鉛製品（化粧品材料を除く）

● 前年同期比

	25.3		26.3		増 減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	13,118	—	10,244	—	▲2,874	▲21.9
営業利益	1,479	11.3	1,222	11.9	▲257	▲17.4

● 前年同期比

売上高	<b>(-) 販売数量の減少</b> 酸化チタンの26.3期末での終売に向けた販売数量の減少影響が大きかった。亜鉛製品については、自動車タイヤ向けで一時的な販売数量の減少はあったものの、概ね堅調に推移した。
	<b>(-) 販売数量の減少</b> 酸化チタン終売に伴う販売数量の減少影響が大きく、前期比で減益となった。
営業利益	

● 修正計画比

	26.3 計画		25.3 実		差	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	11,900	—	10,244	—	▲1,656	▲13.9
営業利益	1,270	10.7	1,222	11.9	▲48	▲3.8

● 修正計画比

売上高	<b>(-) 販売数量の減少、国内亜鉛建値市況の下落</b> 26.3期末での終売を予定していた酸化チタンは、一部製品で27.3期に持ち越した分があり、亜鉛製品に関しては国内亜鉛建値市況が、上期で特に計画比よりも低水準で推移した影響もあり、減収となった。
	<b>(-) 概ね計画通り</b> 酸化チタンは一部27.3期に販売を繰り越した分はあるが、概ね計画通りに販売した。また、亜鉛製品についても販売は堅調に推移し、国内亜鉛建値市況も下期後半からは高騰してきたこともあり、概ね計画通りとなった。
営業利益	

# 樹脂添加剤

## ● 前年同期比

	25.3		26.3		増 減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	13,061	—	11,507	—	▲1,554	▲11.9
営業利益	1,393	10.7	1,068	9.3	▲325	▲23.3

## ● 修正計画比

	26.3 計画		26.3 実		差	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	11,500	—	11,507	—	7	0.1
営業利益	1,000	8.7	1,068	9.3	68	6.3

## ● 前年同期比

売上高	<b>(-) 国内：住宅着工件数の減少、海外：タイ法人の苦戦</b> ベトナム現地法人では非鉛系安定剤等の販売が好調に推移したが、タイ現地法人は政情不安により販売不振となった。国内は住宅着工件数の減少の影響が大きく減収となった。
営業利益	<b>(-) タイ現地法人の苦戦</b> 国内事業よりも収益性が高い海外事業での販売低迷により、前期比で減益となった。

## ● 修正計画比

売上高	<b>(+) 概ね計画通り</b> タイ現地法人の苦戦を、ベトナム現地法人での非鉛系安定剤の拡販などでカバーし、概ね計画通りの売上高となった。
営業利益	<b>(+) ベトナム現地法人での非鉛系安定剤の</b> 低採算品の数量減やベトナム現地法人での非鉛系安定剤の拡販により、販売構成が改善し、計画比+6.3%の増益となった。

# 触媒

## ● 前年同期比

	25.3		26.3		増 減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	3,186	—	3,462	—	275	8.6
営業利益	18	0.6	648	18.7	629	36倍

## ● 修正計画比

	26.3 計画		26.3 実		差	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	3,500	—	3,462	—	▲38	▲1.1
営業利益	570	16.3	648	18.7	78	13.7

## ● 前年同期比

売上高	<b>(+) 価格改定効果、受託品の数量増加</b> ニッケル触媒や脱硝触媒は販売数量は減少したものの、特にニッケル触媒では価格改定によって増収となり、また受託製品の数量も増加したことで、増収となった。
営業利益	<b>(+) 拠点集約の完了、一時的な高付加価値品の販売</b> 効率化に向けた生産拠点集約を上期前半で完了し、前期比で稼働率が向上し固定費負担を軽減できたことに加え、下期は一時的な高付加価値品の販売もあり、増益となった。

## ● 修正計画比

売上高	<b>(-) 概ね計画通り</b> ニッケル触媒、脱硝触媒ともに概ね計画通りの販売で推移した。
営業利益	<b>(+) 一時的な高付加価値品の販売</b> ニッケル触媒において、一時的に高付加価値品の販売が増加し、その分計画対比で増益となった。

# 無機材料

## ● 前年同期比

	25.3		26.3		増 減	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	5,175	—	5,100	—	▲74	▲1.4
営業利益	826	16.0	1,200	23.5	373	45.2

## ● 修正計画比

	26.3 計画		26.3 実		差	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	5,400	—	5,100	—	▲300	▲5.6
営業利益	930	17.2	1,200	23.5	270	29.0

## ● 前年同期比

売上高	<b>(-) 販売数量の減少</b> 採算性重視の販売戦略で、価格是正を進めた結果、販売数量は減少したが、価格是正や高付加価値品の販売でカバーし、前年同期並みの売上高となった。
	営業利益
	<b>(+) 価格是正、高付加価値品の出荷の寄与</b> 塗料・インキ向けなどのバリウム製品の価格是正が浸透し、メガネレンズ向け高付加価値品の販売も寄与し、増益となった。

## ● 修正計画比

売上高	<b>(-) 販売数量の減少</b> 販売量は計画比未達も、価格是正の浸透や、メガネレンズ向け高付加価値品の売上が健闘し、計画対比▲5.6%となった。
	営業利益
	<b>(+) 価格是正、高付加価値品の出荷の寄与</b> 塗料・インキ向けなどのバリウム製品の価格是正が浸透し、メガネレンズ向け高付加価値品の販売も寄与し、計画を上回った。

## ● 前年同期比

	25.3		26.3		差	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	8,321	—	8,391	—	69	0.8
営業利益	▲24	▲0.3	▲48	—	▲23	—
売上高 (新規)	1,718	—	1,805	—	87	5.1

\*新規とは、薬価改定の影響を受けない新規事業のことです。

## ● 修正計画比

	26.3計画		26.3		差	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	8,600	—	8,391	—	▲209	▲2.4
営業利益	0	—	▲48	—	▲48	—
売上高 (新規)	1,918	—	1,805	—	▲113	▲6.3

## ● 前年同期比

売上高	<b>(+) 医療機器や新規事業の販売量増加</b> バリウム造影剤の出荷数量は減少したが、医療機器の販売数量の増加、またサプリメントの新規事業が伸長したことにより、増収となった。
	営業利益
営業利益	<b>(-) 薬価切り下げ影響、一般用医薬品の低迷</b> 医療機器や受託製造の骨充填材などは好調に推移するも、消化性潰瘍治療薬「アルロイドG」の薬価切り下げや、一般用医薬品が低調に推移し、減益となった。

## ● 期初計画比

売上高	<b>(-) 一般用医薬品の低迷、新規製品の計画未達</b> 医療機器での販売台数増加も、風邪薬などの一般用医薬品の低迷や新規製品の販売計画未達などにより、計画比▲2.4%となった。
	営業利益
営業利益	<b>(-) 一般用医薬品の低迷</b> 一般用医薬品が想定以上に販売できず、営業赤字となった。

# 質疑応答

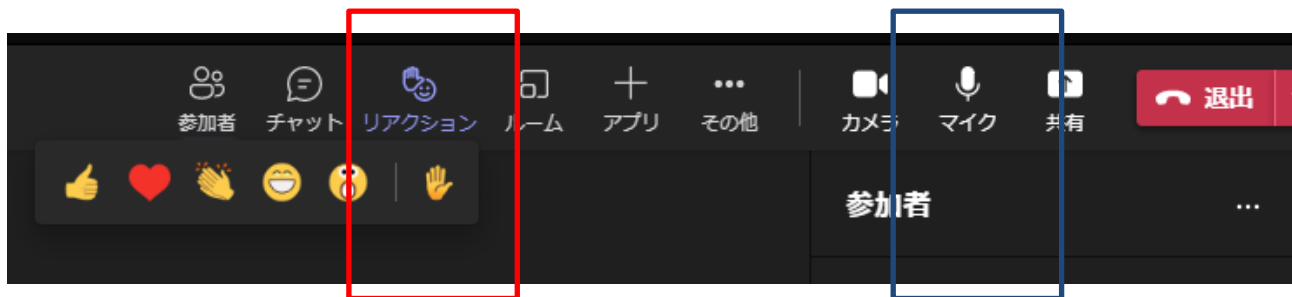
## ■ 質疑応答の順番

① 会場にお越しの皆様 → ② WEBでご参加の皆様

\* 恐れ入りますが、WEBでご参加の皆様は、①での質疑終了までお待ち願います。

\* 会場の時間の関係上、WEBからのご質問をお受けできない可能性がありますこと、予めご了承ください。

## ■ WEBからの質疑方法



ご質問のある方は画面上の「**リアクション**」から挙手をお願いします。

同時に複数の方が手を挙げられた場合には、順番にご案内します（手を挙げるボタンは押したままにしてください）。

事務局よりお名前をお呼びしますので、**マイクミュートを解除の上**ご発言を開始してください。（\*当社HPに公開する書き起しでは、お名前を伏せさせていただきます。）

質疑応答が終わりましたら同じ「**リアクション**」機能から手をおろし、また**マイク**をオフにしてください。

# 参 考 資 料

- 当社概要
- 事業紹介
- 業績推移等



本 社	堺市堺区戎島町5丁2番地
代 表 者	代表取締役社長 矢倉 敏行
創 業	1918年6月
事業内容	無機化学工業製品、有機化学品、医薬品の 開発・製造・販売
総 資 産	117,216百万円（2026年3月末現在）
純 資 産	78,923百万円（2026年3月末現在）
関係会社	連結子会社15社（国内7社、海外8社）
従業員数	連結1,942名／単体769名（2026年3月末現在）

# 当社グループと報告セグメントの関係性について

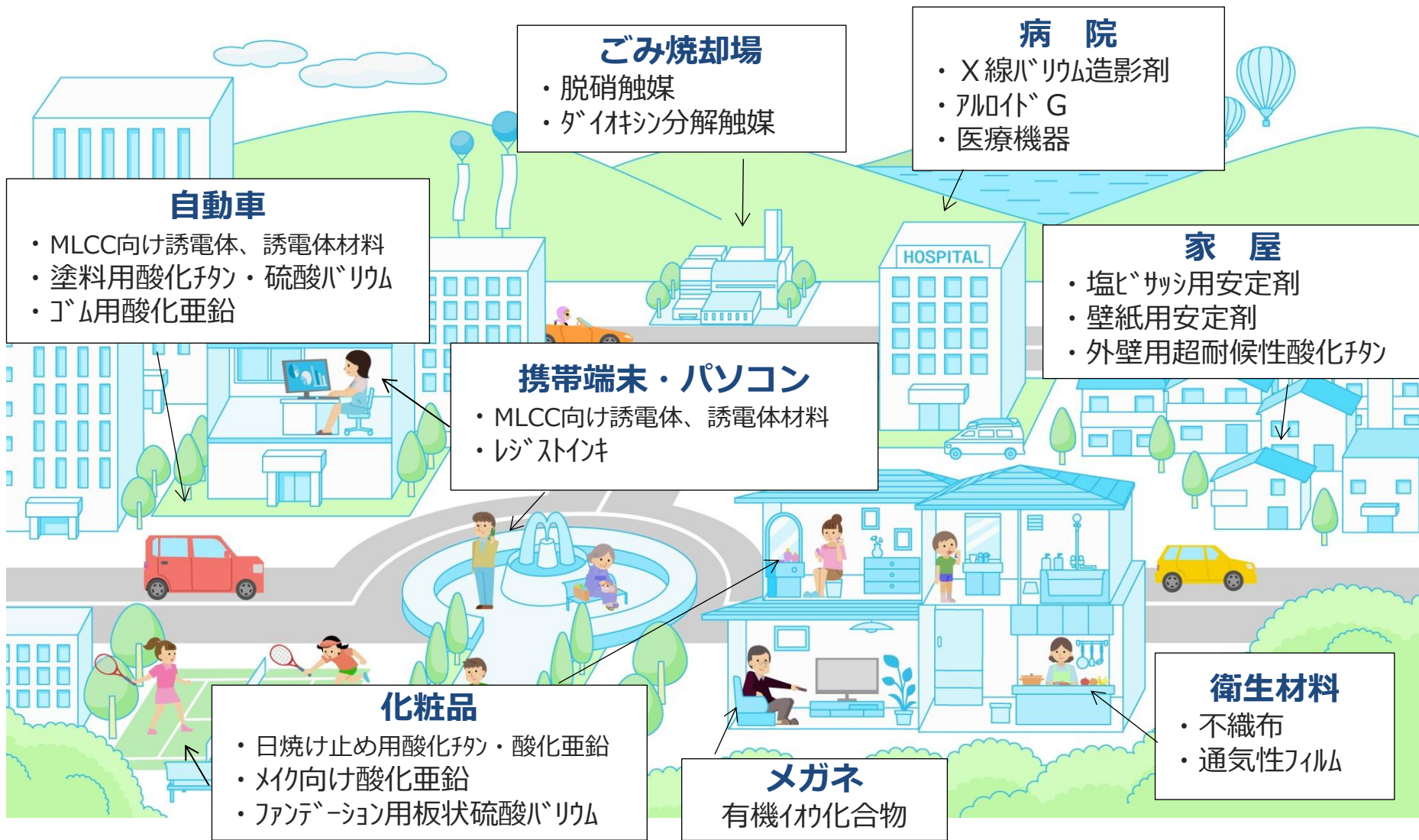
	電子材料	化粧品材料	有機化学品	衛生材料	受託加工	酸化チタン亜鉛製品	樹脂添加剤	触媒	無機材料	医療事業	その他
堺化学工業(株)	●	●	●			●	●	●	●	●	
堺商事(株)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
カイゲンファーマ(株)										●	
大崎工業(株)											●
レジノカラー工業(株)					●						
共同薬品(株)							●				
日本カラー工業(株)					●						
(株)片山製薬所			●								
SCVN*1							●				
SSC*2							●				
S&S*3				●							

\* 1 : SAKAI CHEMICAL(VIETNAM) CO., LTD.

\* 2 : SIAM STABILIZERS AND CHEMICALS CO., LTD.

\* 3 : PT. S&S HYGIENE SOLUTION

# 暮らしに息づく当社グループ製品



# 報告セグメント 売上高・営業利益推移

単位：百万円 (Unit : Million Yen)			FY 2020	FY 2021	FY 2022	FY 2023	FY 2024	新集計		
			21.3	22.3	23.3	24.3	25.3 参考値	FY 2023	FY 2024	FY 2025
								24.3	25.3	26.3
電子材料	売上高	Net Sales	9,723	10,857	8,939	8,978	11,555	7,857	10,014	11,377
Electronic materials	営業利益	Operating Profit	23	1,700	946	280	1,337	616	1,493	1,816
化粧品材料	売上高	Net Sales	1,698	2,460	2,790	2,498	2,677	2,496	2,676	1,720
Cosmetics Materials	営業利益	Operating Profit	292	301	430	-93	23	120	293	-437
有機化学品	売上高	Net Sales	6,882	7,321	8,014	7,813	6,664	7,799	6,638	7,185
Organic chemicals	営業利益	Operating Profit	1,476	1,639	1,600	1,395	689	1,293	770	721
衛生材料	売上高	Net Sales	9,254	5,388	5,496	5,455	5,709	5,340	5,623	5,353
Hygienic products	営業利益	Operating Profit	440	331	327	404	552	448	427	457
受託加工	売上高	Net Sales	6,550	6,947	6,244	6,177	6,404	6,193	6,422	6,677
Contract processing	営業利益	Operating Profit	632	1,029	587	546	605	563	620	805
酸化チタン・亜鉛製品	売上高	Net Sales	11,866	13,257	15,067	14,269	13,464	13,931	13,118	10,244
Titanium dioxide and zinc products	営業利益	Operating Profit	227	744	-34	-432	1,090	-22	1,479	1,222
樹脂添加剤	売上高	Net Sales	11,543	12,489	13,354	13,418	13,080	13,345	13,061	11,507
Plastic additives	営業利益	Operating Profit	397	966	404	636	1,220	762	1,393	1,068
触媒	売上高	Net Sales	3,210	3,644	4,193	3,527	3,135	3,160	3,186	3,462
Catalysts	営業利益	Operating Profit	-82	190	179	73	-223	351	18	648
無機材料	売上高	Net Sales						4,967	5,175	5,100
Barium business	営業利益	Operating Profit						177	826	1,200
医療事業	売上高	Net Sales	8,096	7,892	7,868	7,995	8,264	8,054	8,321	8,391
Medical business	営業利益	Operating Profit	452	418	272	86	-40	89	-24	-48
その他	売上高	Net Sales	16,079	9,875	11,890	11,970	13,256	8,956	10,169	10,427
Other	営業利益	Operating Profit	2,327	2,284	1,930	2,274	3,212	762	1,171	1,498
全社費用 (HQ expenses)	HQ Expenses		-1,880	-2,114	-2,236	-2,227	-2,377	-2,218	-2,376	-2,500
合計	売上高	Net Sales	84,918	80,135	83,861	82,105	84,409	82,105	84,409	81,447
TOTAL	営業利益	Operating Profit	4,304	7,494	4,407	2,942	6,093	2,942	6,093	6,452

※ 25.3に関しては、監査法人による確認を受けていないため、参考値としてお取り扱いください。

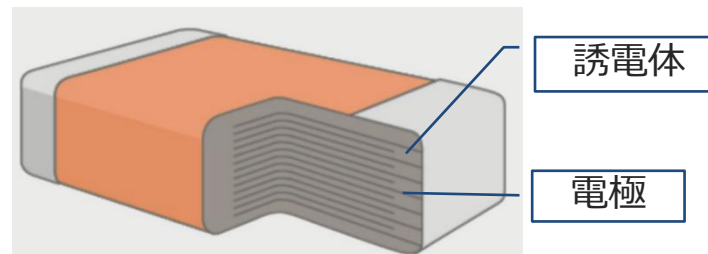
# 報告セグメントの四半期推移

単位：百万円 (Unit : Million Yen)			25.3期 (FY 2024)				26.3期 (FY 2025)			
			1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
電子材料	売上高	Net Sales	2,716	2,448	2,383	2,465	2,870	2,976	2,821	2,708
Electronic materials	営業利益	Operating Profit	341	327	481	342	476	538	424	377
化粧品材料	売上高	Net Sales	757	454	590	873	337	357	426	598
Cosmetics Materials	営業利益	Operating Profit	85	-62	88	182	-63	-152	0	-220
有機化学品	売上高	Net Sales	1,953	1,230	1,437	2,016	2,121	1,692	1,613	1,757
Organic chemicals	営業利益	Operating Profit	372	-36	151	282	459	43	206	12
衛生材料	売上高	Net Sales	1,433	1,410	1,419	1,361	1,283	1,287	1,417	1,365
Hygienic products	営業利益	Operating Profit	111	95	107	112	79	101	127	149
受託加工	売上高	Net Sales	1,610	1,549	1,639	1,623	1,596	1,695	1,702	1,683
Contract processing	営業利益	Operating Profit	179	151	166	122	171	180	248	204
酸化チタン・亜鉛製品	売上高	Net Sales	3,558	3,174	3,277	3,109	2,688	2,450	2,496	2,608
Titanium dioxide and zinc products	営業利益	Operating Profit	369	187	369	553	409	248	167	397
樹脂添加剤	売上高	Net Sales	3,197	3,328	3,461	3,073	3,012	2,808	2,886	2,799
Plastic additives	営業利益	Operating Profit	298	383	390	320	341	178	282	265
触媒	売上高	Net Sales	791	882	758	754	472	748	1,222	1,018
Catalysts	営業利益	Operating Profit	-10	103	70	-144	-3	154	392	105
無機材料	売上高	Net Sales	1,247	1,628	1,130	1,168	1,341	1,291	1,317	1,149
Barium business	営業利益	Operating Profit	207	254	328	36	289	201	396	312
医療事業	売上高	Net Sales	2,126	1,871	2,581	1,741	2,097	2,258	2,224	1,810
Medical business	営業利益	Operating Profit	-10	78	133	-226	6	65	89	-209
その他	売上高	Net Sales	2,476	2,320	2,719	2,653	2,313	2,649	2,888	2,575
Other	営業利益	Operating Profit	254	143	386	386	314	410	411	362
全社費用 (HQ expenses)		HQ Expenses	-603	-596	-622	-553	-574	-591	-662	-672
合計	売上高	Net Sales	21,869	20,299	21,399	20,842	20,136	20,216	21,017	20,076
TOTAL	営業利益	Operating Profit	1,596	1,030	2,052	1,414	1,904	1,379	2,083	1,084

## 電子材料

### 積層セラミックコンデンサ

- ・誘電体（チタン酸バリウム）
- ・誘電体材料（高純度炭酸バリウム）



電子機器には欠かせない積層セラミックコンデンサのメイン材料。

誘電体は電気をたくさん貯める性質を持ちます。

当社は、微細で形が均一に揃った球状の誘電体を開発し、コンデンサの性能向上に貢献していきます。

こんなところに  
使われています



## 化粧品材料

日焼け止め、ファンデーション

- ・化粧品材料 … 高い紫外線遮蔽や滑らかな肌触りを  
実現

こんなところに  
使われています



## 有機化学品

プラスチックレンズ、コンクリート、潤滑油、医薬品

- ・有機イオウ化合物 … メガネレンズの屈折率向上、  
コンクリート混和剤としても
- ・有機リン化合物 … 潤滑油添加剤に
- ・医薬品原薬・中間体

こんなところに  
使われています



## 衛生材料

おむつ、生理用品

- ・通気性フィルム … 水分を留めて空気だけを通す

海外で需要が増加している中、インドネシア子会社では通気性フィルムを製造しています。

こんなところに  
使われています



## 受託加工事業

無機・有機化学工業製品の受託製造

- …顔料、着色剤、機能性インキ、触媒、樹脂添加剤など

さまざまな機械を取り揃え、幅広い分野のカスタマイズ品や量産試作対応等に、お応えしています。



## 樹脂添加剤

パイプ、継手、窓枠、壁紙、ワイヤーハーネス

- ・ 塩ビ安定剤 ・ 非塩ビ安定剤
- ・ ハイドロタルサイト ... 非鉛系塩ビ安定剤や  
高い保温性と透明性から農業用フィルムに



塩ビ安定剤は、樹脂の加工性向上や劣化抑制などのために添加されます。現在、世界的に塩ビ安定剤の脱鉛化が進んでおり、非鉛系への切替えが加速しています。

ベトナム子会社では非鉛系安定剤およびその原料となるハイドロタルサイトを製造、タイ子会社では鉛系・非鉛系安定剤を製造し、いずれも東南アジアを中心に販売を拡大しています。

こんなところに  
使われています



# 事業の紹介

## 酸化チタン・亜鉛製品

- ・酸化チタン…着色力、隠ぺい力、耐候性、  
化学的安定性に優れる白色顔料
- ・酸化亜鉛…ゴム製品の加硫促進助剤

こんなところに  
使われています

酸化チタンは、塗料やインキ、製紙、プラスチック、  
化学繊維などあらゆる分野に必要とされる素材です。



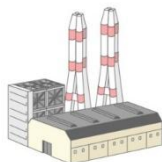
## 触媒

ごみ焼却場、火力発電所、マーガリン、接着剤、光学フィルム

- ・脱硝触媒 … 窒素酸化物を除去
- ・プロセス触媒(ニッケル触媒) … 油脂・樹脂の水素化など

ニッケル触媒は使用先の光学フィルムや紙おむつ接着剤の  
需要増加に伴い、事業を拡大を目指しています。

こんなところに  
使われています



## 無機材料

- ・硫酸バリウム
- ・ストロンチウム塩類
- ・ジルコニアゾル 等

硫酸バリウムは、各種塗料やインキ、フィルムなどへ配合されており、意匠性向上や耐熱性向上など、各製品へ必要な機能をサポートしています。また開発品としてジルコニアゾルも取り扱っており、主にメガネレンズ向けの屈折率調整剤等として使用されています。

こんなところに  
使われています





## カイゲンファーマ(株)

### X線バリウム造影剤

…消化管撮影



1931年に原料となる薬用硫酸バリウムの製造を開始。定期検診でお馴染みのものですが、海外への輸出も行っています。

### 医療機器

・内視鏡用洗浄消毒器



バリウムから胃カメラ検診への移行に対応。薬価改定の影響を受けない事業と位置付け、開発に注力しています。

### アルロイドG

…消化性潰瘍・逆流性食道炎治療薬

胃・十二指腸潰瘍の止血や粘膜保護、逆流性食道炎における自覚症状を改善。



### 一般用医薬品

・「改源」シリーズ  
・カイゲン顆粒  
・カイゲンパックIB顆粒



「メイドインジャパン」品質で台湾市場への販売を開始。

# ご清聴ありがとうございました。

本資料は、情報の提供を目的とし、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成したものであり、リスクや不確実性を含んでいるため、実際の業績はこれと異なる結果となる可能性があります。

ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に依存して投資判断されることにより生じうるいかなる損失に関して、当社は責任を負いません。